

ULVAC REPORT

第115期 事業報告書
2018年7月1日～2019年6月30日



ULVAC

証券コード：6728

スマート社会における成長機会を捉え、 真空総合メーカーとしての飛躍を目指します。

2019年6月期の振り返り

設備投資延期の影響を受け、減収・減益に

2019年6月期は、市場が前期までの好況から低調に転じ、当社グループの業績も期初の計画に対して未達となりました。

営業状況を振り返ると、FPD・PV製造装置は、中国を中心とする大型TV向けLCD製造装置やスマートフォン向けOLED製造装置の受注が業績に寄与しましたが、受注高・売上高は前期を下回りました。半導体・電子部品製造装置は、モバイル機器向け高機能デバイスやパワー半導体向けの製造装置が堅調を維持

したものの、メモリ関連の設備投資が延期されたことによる影響を受け、受注高・売上高ともに減少しました。また、コンポーネントは堅調に推移し、受注高・売上高を伸ばしましたが、一般産業用装置の受注は減少し、売上高は横ばいにとどまりました。材料の受注高・売上高は、韓国における装置稼働の低下などの影響を受け、前期を下回りました。

利益面においては、減収の影響に加えて販売費及び一般管理費が増加したことにより、営業利益率が前期の14.2%から10.8%に低下し、各利益項目とも減益となりました。

結果として当期の連結業績は、受注高2,185億円(前期比10.1%減)、売上高2,207億円(同11.5%減)、営業利益238億円(同32.6%減)、経常利益256億円(同30.7%減)、親会社株主に帰属する当期純利益187億円(同48.0%減)となりました。

経営基本理念

アルバックグループは、互いに協力・連携し、真空技術及びその周辺技術を総合利用することにより、産業と科学の発展に貢献することを目指す

経営方針

- 顧客満足の増進
- 生産技術の革新
- 独創的な商品開発
- 自由闊達な組織
- 企業価値の向上

今後の見通し

2020年6月期は目標数値未達予測であるも、中・長期の市場展望を踏まえた成長戦略に基づく取り組みを加速

足元の事業環境は、半導体メモリの投資再開に遅れが見られ、大型TV向けLCDなどの設備投資に関する商談も一巡したことなどから、設備投資の動きが一時的に弱含んでいる状況です。特に半導体メモリは、2017年から2018年にかけての活発な投資による供給過剰と価格下落が続き、また米中ハイテク摩擦による影響も生じているため、設備投資の本格再開は2020年以降になると予想されています。

そうした中、当社グループの2020年6月期は、大型TV向けLCD製造装置の受注が一服し、スマートフォン向けOLEDの顧客企業における投資計画も2020年度になる可能性が高いことから、FPD・PV製造装置の受注高・売上高が引き続き減少する

代表取締役執行役員社長

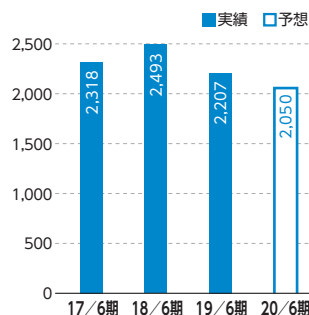
岩下 節生



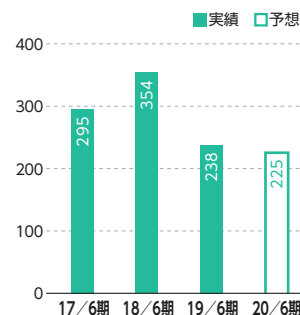
連結業績の推移 (単位：億円)

	18/6期 実績	19/6期 実績	前期比
受注高	2,430	2,185	△244 (△10.1%)
売上高	2,493	2,207	△286 (△11.5%)
営業利益	354	238	△115 (△32.6%)
率	14.2%	10.8%	△3.4pt
経常利益	369	256	△113 (△30.7%)
率	14.8%	11.6%	△3.2pt
親会社株主に帰属 する当期純利益	359	187	△172 (△48.0%)

売上高(連結) (単位：億円)



営業利益(連結) (単位：億円)



見通しです。一方、半導体・電子部品製造装置は、下期からの半導体メモリの投資再開に加え、新型不揮発性メモリ(PCRAM)やロジック、通信デバイス、センサ、パワーデバイスなどの伸びも期待できるため、受注高・売上高とも増加に転じるものと見込んでいます。

以上を前提に2020年6月期の連結業績は、受注高2,060億円(当期比5.7%減)、売上高2,050億円(同7.1%減)、営業利益225億円(同5.6%減)、経常利益235億円(同8.1%減)、親会社株主に帰属する当期純利益155億円(同17.0%減)を予想しています。また、研究開発投資については、半導体メモリ・ロジック、MEMS・センサ、パワーデバイス、OLEDディスプレイなど今後の成長分野に積極的に取り組んでおり、研究開発設備投資等に98億円(当期比32億円増)、研究開発費に96億円(同4億円増)を計画しています。現在推進中の3か年中期経営計画(2018年6月期～2020年6月期)では、最終年度の連結業績における「売上高2,650億円」「営業利益380億円」の達成を目標に掲げていましたが、前述の通りこれらは未達となる見通しです。しかし、2023年6月期の目指す姿として設定した「連結売上高3,000億円」「連結営業利益率16%」については、後述の中・長期の市場展望を踏まえた成長戦略のもと、目標数値を変更せずに達成を目指してまいります。

今後の市場展望と成長機会

真空技術で持続可能な社会を支えるアルバック

当社グループを取り巻く事業環境は、足元では一時的な市場変化の影響を受けているものの、中・長期の市場展望としては、あらゆる産業がエレクトロニクス化する「スマート社会」の到来により、大きな成長機会が目の前に拡がっている状況にあります。AIやIoT、AR/VR、5G通信などの技術革新が先進的なキーデバイスを生み出す「スマート社会」を舞台に、アルバックは真空総合メーカーとして、成膜加工技術および装置要素技術、更にそれらのコアテクノロジーを融合した幅広い技術カバレッジを提供していきます。(「スマート社会」とアルバックの関わりについては、p5の特集も合わせてご参照願います)

「スマート社会」を支える基盤技術では、データの膨大化に対応した半導体の処理速度の高速化と低消費電力化が求められます。当社グループは、PCRAMなど不揮発性メモリの製造装置を開発・供給し、そのニーズに応えます。そして「CASE」と呼ばれる自動車産業の変革を支える技術、スマートフォンなどモバイル端末の進化と5G通信ネットワークの拡大、医療・ヘルスケア分野に貢献するバイオメディカルデバイス、発電・蓄電・変換によって持続可能な社会を支えるエネルギーマネジメントなど、「スマート社会」を形成する多くのアプリケーションを、先進的な薄膜プロセス技術と新材料によって実現します。

私たちアルバックの強みは、優位技術の保有のみならず、幅広い技術カバレッジと製品ラインアップ、中国など成長地域におけるサプライチェーンの確立にあります。今後はこれらの強みを

活かして、より多くの成長機会を獲得すべく、変化を捉えるマーケティング力を高めながら、顧客企業の先のエンドユーザーに開発段階からアプローチする取り組みを強化し、協業・コラボレーションの輪をグローバルに広げてまいります。

株主の皆様にお伝えしたいこと

グローバルな競争環境で勝ち残るための変革

当社グループは、2019年7月1日付で組織改編を実施し、「半導体装置」「FPD・PV」「電子機器」「産業機器」「規格品」「マテリアル」の6事業部とその関連業務を行うグループ会社の一体化を更に進めております。また、各事業を支援する組織として、経営効率化の観点から業務面・制度面を見直す「イノベーションセンター」、グループ全体の経営資源を有効活用し、新たなビジネス価値につなげる「新ビジネス創成センター」、マーケティング機能や営業管理機能を統括し、グローバルマーケティング体制を強化する「営業・マーケティングセンター」、ものづくり力と生産性を高め、海外生産拠点との連携を強める「製造センター」を設置しました。

今後はこの体制のもと、お客様のニーズを的確に捉える営業・マーケティング活動の更なる拡充とグループ経営の効率向上を図り、グローバルな競争環境で勝ち残るための全社的な変革を進めていきます。

前述のIoTや5Gによるスマート社会を支えるのが当社グループの使命ではありますが、真空の総合メーカーとして、ESGやSDGsで求められているような地球規模での環境や社会に関する



課題に貢献できる分野が他にも多数あります。

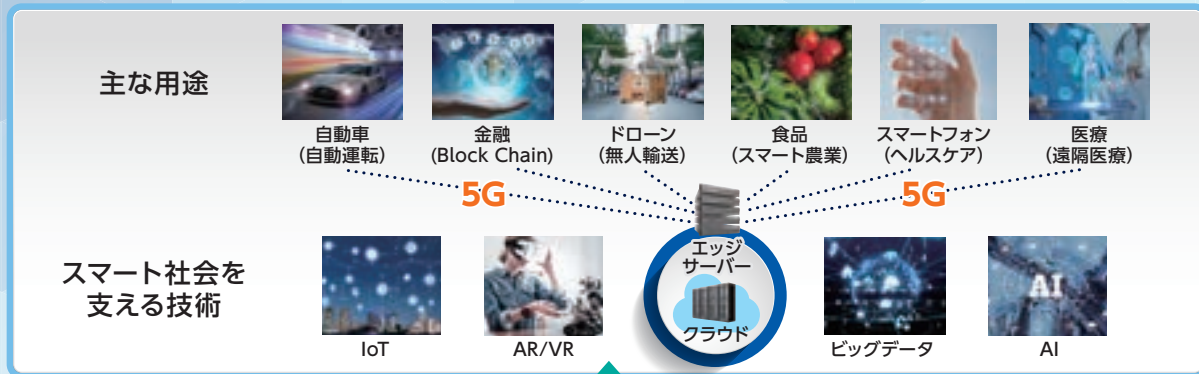
例えば、スマート社会の伸展の裏側で発生する電力需要の爆発的な拡大にも、太陽電池やパワーデバイスなどのソリューションで応えるとともに、製造メーカーの責任として気候変動等への対応・貢献もしていきます。

また、真空凍結乾燥技術や極低温技術などを通じて、フリーズドライ食品などによるフードロス削減や、粉末ワクチンや医薬品、再生医療などのヘルスケアなどにも貢献していきます。

このような貢献を通じて、社会から必要とされ続ける会社を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、当社グループの更なる飛躍にご期待いただき、これからも長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「スマート社会」を実現する技術



アルバックの成長市場!!

キーデバイス (重要技術)

半導体メモリ・ロジック・新型不揮発性メモリ (PCRAM)、MEMS・センサ、通信デバイス、パワーデバイス、Liバッテリー、先端実装、OLEDディスプレイ

アルバックの成膜加工技術

スパッタリング 蒸着 CVD ALD アッシング インプラ エッチング

アルバックの装置要素技術

材料 コンポーネント プラズマイオン源 計測・分析 金属加工 ロボット

世界では今、人口の都市集中や高齢化を背景に、エネルギーおよび水・食料の不足、交通渋滞、医療の不足、自然環境の変化などによるリスクが大きな課題となっています。その一方で、数十年に一度と言われる技術革新の大波が到来し、情報通信の高速化、低消費電力化、交通・物流の自動化、農業生産の効率化、健康寿命の延伸をもたらすヘルスケアの発展などを通じて、これらの社会課題の解決が図られつつあります。

AIやIoT、AR/VR、ビッグデータ、5G通信などの技術革新によって、あらゆる産業のエレクトロニクス化が進み、「スマート社

会」が実現することで、様々な社会課題の解決につながります。そのためのキーデバイスである半導体メモリ・ロジック、MEMS・センサ、パワーデバイス、OLEDディスプレイなどの成長市場において、アルバックは成膜加工技術および装置要素技術を提供するコアテクノロジーの担い手として、「スマート社会」の実現に不可欠な存在であると自負しております。さらに、それらのコアテクノロジーを融合させ、新たなアプリケーションを生み出し提供することで、今後の「スマート社会」の進展をリードするニーズに答えてまいります。

ULVAC Topics

Topics
1

欧州ビジネスへの 取り組み

自動車産業、IoT/Industry 4.0分野の研究開発が活発な欧州における新規市場獲得を目的に、アルバックの強みである次世代MEMS向けPZT圧電薄膜プロセス技術が突破口として、欧州の大手MEMSメーカー数社と戦略的コラボレーションを展開しています。また、英国Oxford Instruments社とのコラボレーションを通じてアルバックの保有する装置ラインアップを補充し、パワーデバイスやRFデバイス市場に完成されたソリューション技術を提供し、ビジネスの拡大を目指します。

取り組み ①

次世代MEMSセンサー・アクチュエーター向けPZT圧電薄膜スパッタリング技術の高度化を実現、量産装置の販売を開始

スマート社会を支えるシステムであるVR/AR/MR、LIDAR*などに搭載されるマイクロミラーデバイス(光学デバイス)の実現に欠かせない、独自技術と装置を発表しました。これは新たなアプリケーションの実現を大きく前進させ、MEMSデバイスを新たなステージに引き上げる重要な開発です。この技術は装置、材料、プロセスを一貫して提供できるアルバックの強みを発揮した、企業価値創造に貢献する技術戦略の大きな成果となります。スパッタリングに加え、エッチング、アッシング、スパッタリング・ターゲットなど幅広いソリューションでMEMSデバイス技術の更なる革新をリードし、スマート社会の実現に大きく貢献します。

スパッタリング装置「SME-200」



*LIDAR: 光を用いたリモートセンシング技術

(2019年7月2日プレスリリース)

URL: <https://www.ulvac.co.jp/information/20190702/>

取り組み ②

Oxford InstrumentsがAtomfab®を発表: GaNパワーデバイスのパッシベーションに対応するALD量産ソリューションの国内販売をアルバックが開始

英国Oxford Instruments Plasma Technology (OIPT)のGaN(窒化ガリウム)パワーデバイス業界向けプラズマアトミックレイヤーデポジション(ALD) HVM(high-volume manufacturing)ソリューションAtomfab®を国内販売開始しました。GaNデバイスは、省エネ家電、5Gネットワーク、電気自動車、再生可能エネルギー変換などの用途に適した次世代の効率的なパワーエレクトロニクスデバイスを実現します。

ALD
量産ソリューション
Atomfab®



Atomfab®は、高スループットと低CoOにより、高品質のゲートパッシベーションを安定して実現します。アルバックの従来の装置ラインアップに加え、パワーデバイスやRFデバイス市場へのさらなるソリューションを提供し、ビジネス拡大を目指します。

(2019年7月29日プレスリリース)

URL: <https://www.ulvac.co.jp/information/20190729/>

Topics
2

バイオメディカルビジネスに向けた取り組み ～豪モナッシュ大とのコラボレーション～

2025年、先進国の総人口の5人に1人が65歳以上*という高齢化社会に突入します。医療・介護需要の急速な増加、さらに医療格差が大きな社会問題となる中、健康管理(ヘルスケア)の要としてバイオメディカルデバイスが注目されています。バイオメディカルデバイスは細胞やDNAなどを取り扱うため、半導体レベルの微細加工技術が必須となります。アルバックは、この分野で権威あるモナッシュ大学(オーストラリア)とのコラボレーションを通じてこれまで半導体で培った薄膜要素技術(Si微細加工)を発展させ、バイオメディカルビジネスへの参入を目指しています。

Si微細加工(Siナノチューブ)

モナッシュ大学とのコラボレーション一例(学会発表)
「CSIRO-NIMS Symposium: Materials and technologies for life science applications, 19th, 20th March 2019 @ NIMS」にて発表

* World Population Prospects 2019, Medium variant



Topics
3

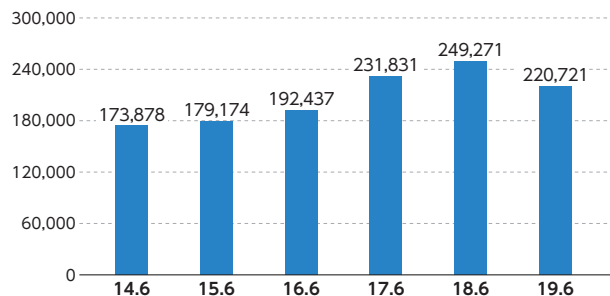
中国 合肥市へ新会社「愛発科成膜技術(合肥)有限公司」を設立

中国の合肥地区に愛発科成膜技術(合肥)有限公司を設立し、2018年9月に起工式を行いました。当該会社はFPD(フラットパネルディスプレイ)用マスクブランクス【液晶テレビやスマートフォンなどのディスプレイを作るときに使う回路を転写するための原板】を生産することを主な事業とし、今後FPD事業の中心拠点と目される中国・合肥市において事業基盤を構築し、事業規模および事業領域を拡大することを目的としています。

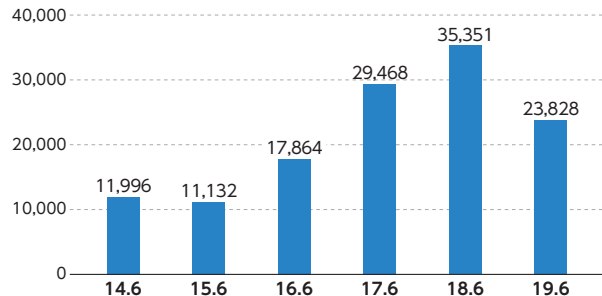


決算ハイライト

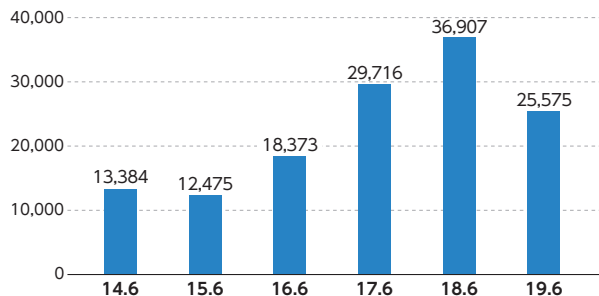
連結売上高 (単位: 百万円)



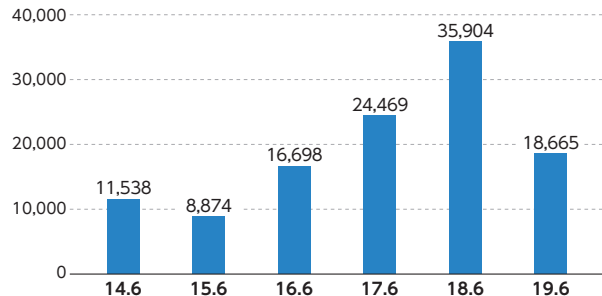
連結営業利益 (単位: 百万円)



連結経常利益 (単位: 百万円)

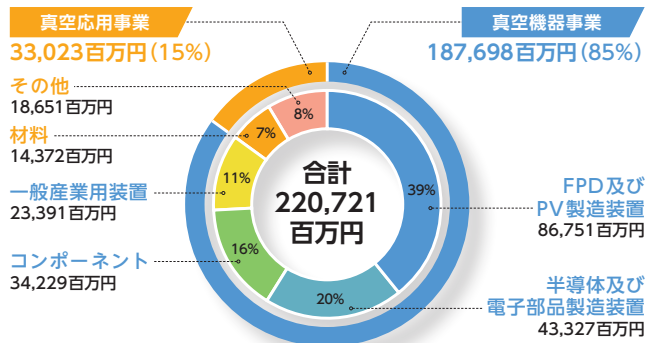


親会社株主に帰属する当期純利益 (単位: 百万円)



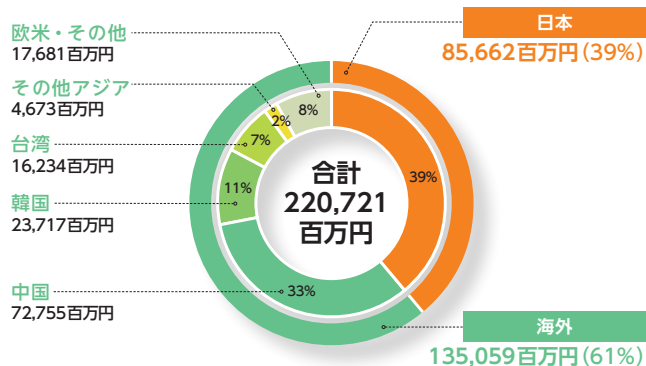
事業別売上高

(19年6月期)



地域別売上高

(19年6月期)



連結財務諸表

※記載金額は単位未満を四捨五入して表示しております。

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度 2018年6月30日現在	当連結会計年度 2019年6月30日現在
資産の部		
流動資産	192,026	181,962
固定資産	105,392	100,340
有形固定資産	64,297	65,687
無形固定資産	3,454	3,446
投資その他の資産	37,641	31,207
資産合計	297,418	282,302
負債の部		
流動負債	118,829	94,501
固定負債	24,520	30,213
負債合計	143,348	124,714
純資産の部		
株主資本	131,756	145,522
その他の包括利益累計額	15,775	5,390
非支配株主持分	6,538	6,676
純資産合計	154,069	157,588
負債純資産合計	297,418	282,302

※「[税効果会計に係る会計基準]の一部改正」の適用に伴い、2018年6月期につきましては、遡及後の数値を記載しております。

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度 2017年7月1日から 2018年6月30日まで	当連結会計年度 2018年7月1日から 2019年6月30日まで
売上高	249,271	220,721
売上原価	176,163	155,845
売上総利益	73,108	64,876
販売費及び一般管理費	37,757	41,047
営業利益	35,351	23,828
営業外収益	2,631	2,816
営業外費用	1,076	1,069
経常利益	36,907	25,575
特別利益	2,002	2,088
特別損失	382	515
税金等調整前当期純利益	38,527	27,148
法人税・住民税及び事業税	7,309	6,709
法人税等調整額	△5,937	451
当期純利益	37,155	19,988
非支配株主に帰属する当期純利益	1,250	1,323
親会社株主に帰属する当期純利益	35,904	18,665

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度 2017年7月1日から2018年6月30日まで	当連結会計年度 2018年7月1日から2019年6月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	19,086	18,282
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,564	△9,448
財務活動によるキャッシュ・フロー	△10,734	△5,844
現金及び現金同等物に係る換算差額	4	△908
現金及び現金同等物の増減額	6,793	2,082
現金及び現金同等物の期首残高	47,555	54,348
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	—	△571
現金及び現金同等物の期末残高	54,348	55,859

単体貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

科目	前事業年度 2018年6月30日現在	当事業年度 2019年6月30日現在
資産の部		
流動資産	121,887	119,590
固定資産	91,074	83,425
有形固定資産	37,340	39,544
無形固定資産	2,744	2,551
投資その他の資産	50,990	41,330
資産合計	212,961	203,015
負債の部		
流動負債	93,189	77,530
固定負債	14,744	21,266
長期借入金	13,558	20,468
退職給付引当金	459	114
その他	727	684
負債合計	107,933	98,796
純資産の部		
株主資本	90,109	97,599
評価・換算差額等	14,918	6,620
純資産合計	105,028	104,219
負債純資産合計	212,961	203,015

単体損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

科目	前事業年度 2017年7月1日から 2018年6月30日まで	当事業年度 2018年7月1日から 2019年6月30日まで
売上高	148,493	119,509
売上原価	109,862	90,546
売上総利益	38,630	28,963
販売費及び一般管理費	19,769	21,328
営業利益	18,862	7,635
営業外収益	6,047	7,401
営業外費用	879	1,137
経常利益	24,030	13,899
特別利益	2,002	1,710
特別損失	358	293
税引前当期純利益	25,674	15,316
法人税、住民税及び事業税	2,284	1,646
法人税等調整額	△6,297	1,512
当期純利益	29,687	12,159

会社データ / 株式の状況

会社概要 2019年6月30日現在

商号	株式会社アルバック ULVAC, Inc.
商標	ULVAC
本社	神奈川県茅ヶ崎市萩園2500番地
設立	1952年8月23日
資本金	20,873,042,500円
従業員数	1,335名(連結6,424名)

役員 2019年9月27日現在

代表取締役執行役員社長	岩下 節生
取締役執行役員副社長	本吉 光
取締役専務執行役員	末代 政輔
取締役常務執行役員	白 忠烈
取締役執行役員	青木 貞男
取締役(社外)	御林 彰
取締役(社外)	内田 憲男
取締役(社外)	石田 耕三
取締役(社外)	中島 好美

常務執行役員	佐藤 重光
常務執行役員	石黒 雅彦
上席執行役員	齋藤 一也
執行役員	蔡 有哲
執行役員	近藤 智保
執行役員	島田 鉄也
執行役員	衣川 正剛
執行役員	曾 正明
執行役員	鄒 弘綱
執行役員	高橋 信次
監査役(常勤)	伊藤 誠
監査役(常勤)	矢作 充
監査役(社外)	浅田 千秋
監査役(社外)	宇都宮 功

株式の状況 2019年6月30日現在

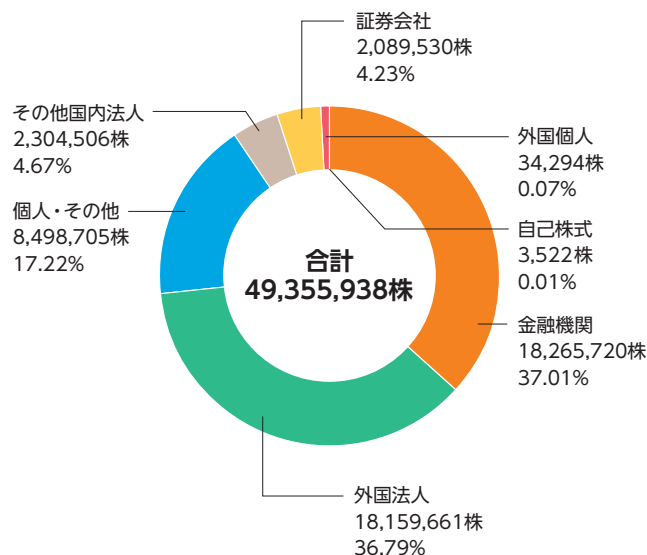
発行可能株式総数	100,000,000株
発行済株式の総数	49,355,938株
株主数	17,166名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本生命保険相互会社	3,242	6.57
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,087	6.25
TAIYO FUND,L.P.	2,546	5.16
JP MORGAN CHASE BANK 385151	2,380	4.82
株式会社みずほ銀行	1,916	3.88
株式会社三井住友銀行	1,864	3.78
TAIYO HANEI FUND,L.P.	1,639	3.32
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,452	2.94
SMBC日興証券株式会社	1,232	2.50
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505227	1,039	2.11

(注)持株比率は自己株式(3,522株)を控除して計算しております。

所有者別株式数



株主メモ

事業年度	7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	9月下旬
基準日	定時株主総会・期末配当 6月30日
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	TEL.0120-782-031 (フリーダイヤル) 受付時間 9:00～17:00(土・日・休日を除く)

住所変更など諸手続のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社等にお申し出ください。
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。
三井住友信託銀行株式会社への
手続用紙(住所変更・買取請求・配当金振込指定など)のご請求
ホームページアドレス
<https://www.smbj.jp/personal/agency/>

未払配当金のお支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

配当金のお受け取り方法について

配当金を配当金領収証でお受け取りの株主様には、確実に配当金をお受け取りいただける預金口座や証券会社の口座への振込みによる配当金のお受け取りをお勧めします。詳しくはお取引証券会社等にお問合せください。

IRカレンダー

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	第2四半期 決算発表			第3四半期 決算発表			期末期 決算発表			第1四半期 決算発表	

定時株主総会

ホームページのご案内



企業情報はこちら

<https://www.ulvac.co.jp/>



IR情報はこちら

<https://ir.ulvac.co.jp/ja/Top.html>



本事業報告書に記載されている当社の現在の計画・戦略及び予測については、現在入手可能な情報に基づき、当社が現時点で合理的であると判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。実際の業績は様々な要因により本事業報告書の内容とは異なる可能性のあることをご承知おきください。

ULVAC 株式会社アルバック

本社・工場
〒253-8543 神奈川県茅ヶ崎市萩園2500番地
TEL.0467-89-2033



2019
健康経営優良法人
Health and productivity
ホワイト500



2019
健康経営優良法人
Health and productivity

UD FONT
見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

